

令和4年度射水市社会教育委員会議 会議概要

1 開催日時及び場所

令和4年7月27日(水) 午前10時00分～午前11時05分

射水市役所本庁舎会議室401

2 出席者

【委員】

丹羽 康雄委員、岡本 昭彦委員、稲垣 征子委員、三角 芳弘委員、瀧田 秀成委員、
梶尾 啓子委員、藤井 徳子委員、高橋 清美委員

(委員10名中8名出席)

【事務局】

金谷教育長、久々江事務局長、塩谷事務局次長兼生涯学習・スポーツ課長、星野学校教育課長、
北村スポーツ施設整備班長、鳥本生涯学習・スポーツ課課長補佐兼スポーツ推進係長、
金三津文化財係主査、石黒生涯学習係長、川合生涯学習係主事

3 会議概要

(1) 開 会

教育長あいさつ

議長あいさつ

(2) 議事

【説明事項】

社会教育委員について

【報告事項】

令和3年度社会教育主要事業の現況と成果等について

(3) その他

(4) 閉 会

□ 配布資料

・会議次第

・資料1・・・令和3年度社会教育主要事業の現況と成果等について

・参考資料1・・・社会教育委員とは

・参考資料2・・・射水市社会教育委員名簿

・令和4年度射水市教育行政要覧

4 報告事項についての質疑・発言

(1) 生涯学習活動事業について

Q 令和4年度末で市有バスが廃止されると聞いた。各地域振興会では、これまで市有バスを利用して生涯学習活動を行ってきたため、活動時の民営バス利用に対する補助を検討してもらいたい。
〔委員〕

A 各地域振興会にとって市有バスの廃止が過度な負担にならないよう、工夫しながら新年度予算を要求していきたい。〔事務局〕

(2) 放課後子ども教室・土曜学習推進事業、放課後児童クラブについて

Q 中学校では、土曜・日曜の部活動が段階的に学校教育から切り離され地域へ移行する流れにある。地域へ移行した際には、競技や種目の喜びや楽しさを教えてもらえるような形ができていけばよいと思う。そしてスポーツだけではなく文化面でも、子どもが大人になっても生涯学び続けたいと思えるものを提供できる市であってほしい。〔委員〕

Q 一部の教室では参加者が減少していると説明があったが本当か。放課後児童クラブや放課後子ども教室において、本人が参加したくても、市の方針で高学年を受け入れていないのではないか。〔委員〕

A 放課後児童クラブの対象者は1年生から6年生だが、支援員の配置数等により低学年を優先的に受け入れている現状がある。放課後子ども教室は、大門小学校を例として挙げると、令和元年度と3年度で登録人数の減少がみられる。その間、2教室の内容を見直し改善を図っている。

高学年に対し機会の提供を打ち切る方針はなく、放課後子ども教室では内容を見直し、入れ替えることによって、新たに興味を持てる分野を見つけてもらい、長く続けてもらうことを期待している。

放課後子ども教室では、学校の空き（終了）時間と教室の講師の方との調整で開催日を決定しているため、結果的に高学年が参加できる教室は限られてしまう。教育委員会としては、調整の上、参加者の幅を極力広げていきたいと考えている。〔事務局〕

Q 保護者の中には子どものために仕事をセーブしている方もおり、子どもが成長していくにつれ時間に余裕が出てくることもある。その中には元アスリートやアーティスト、アマチュア音楽家等、先生になれる人材もいるはずなので、部活動や放課後子ども教室の指導者確保の手段の一つとして、市でうまくマッチングしてもらえればと思う。〔委員〕

(3) その他

Q 下地区スポーツクラブは、発足した当初は活動も活発だったが、親子が活動の中心となっていることもあり、子どもの減少に伴い活動しづらい状況になっている。さらに子どもが減ると思うと今後が不安になる。市として対策は考えられるか。〔委員〕

A スポーツクラブでは、教室の参加者が減少すると講師代を捻出できなくなり事業の継続が難しくなるという、少子化の流れの中では避けられない問題を抱えている。参加者確保のためには、現在の旧市町村ごとの地区割こだわらず、地域全体で対応していくことも必要と思われる。同時に、昔ながらの地域性を維持する方法も模索しながら、今後の対応を検討していきたい。〔事務局〕

Q 様々な活動が新型コロナウイルス感染症により制限を受けている。子どもの時にしか体験できないこともあり、経験させてあげられないことにもどかしさを感じる。特に子どもは経験することで行動できるようにもなる。事業の中止という選択だけではなく、感染症対策を講じることで、工夫しながら事業を実施して行ってほしい。〔委員〕